

アメリカ教育改革の一考察
- 日本型チャータースクールを求めて -

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター

現在の日本の学校は、いじめ、不登校、学級崩壊、そして学習内容の削減、学力低下、と問題が山積みである。学校の教師も現場でそれなりには努力しているが、一教師の奮闘では対処できないところまできている。明治時代の学制より続いた官僚主導の教育制度は大きな曲がり角にさしかかっている。そこで、「教育改革」に、政府もやっと目覚め、重い腰をあげ、前向きに進んでいるようである。現在の教育が抱える諸問題を打開する為に政府は構造改革特区のプログラムに教育分野も含め特定の地域に限って規制を緩め自由な取り組みが認められるようにした。このことにより、本論文の「チャータースクール」設立の可能性も大きく前進するだろうと期待できる。

本論文では、第1章ではアメリカ教育の文化的構造に関して多様な側面から考察をくわえた。第2章のチャータースクール(Charter school)では、アメリカの教育戦略と密接に関連させながら、その現状と課題について探求した。第3章は、アメリカにおけるチャータースクールから学びつつ、日本型チャータースクールの可能性を検討した。その結果、日本型チャータースクールを日本社会に根付かせることは今後の日本の教育改革にとって大きな意義があるという結論に達した。